

Europe Indicators

発表日: 2020年5月20日(水)

欧州経済指標コメント: 5月英国労働統計

～休業補償が失業率の上昇を抑制～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

- 19日に発表された労働力調査ベースの英国の失業率は、3月から遡って3ヶ月の移動平均値で3.9%と前月の4.0%から低下した。新たに計算に加わった3月値が3.73%と同一サンプルの昨年12月値(3.85%)から予想外に低下した。英国では他の欧州諸国から遅れて3月24日に都市封鎖を開始した。3月16～31日の生活保護(ユニバーサル・クレジット)の申請件数が95万件以上に急増していたが(通常の2週間は約10万件)、失業率の計数にこうした影響は確認されない。
- 4月の失業保険の受給件数は前月から85.7万人と急増し、同ベースの失業率(失業給付の受給率)は前月の3.5%から5.8%に急上昇した。労働力調査ベースの失業率への影響も来月以降に顕在化しよう。4月20日に申請が開始された2500ポンドを上限に休業者の給与の8割を支給する所得補填制度(ジョブ・リテンション・スキーム)は、5月17日時点で98.6万社が利用を申請し、対象労働者の数は800万人に上る。これは全就業者の約24%に相当。休業手当は10月末まで延長され(8月以降は休業者のパート労働が認められ、企業負担が増加)、失業率の上昇抑制要因となる。
- 全産業の週当たり賃金(賞与を含む)は、3月から遡って3ヶ月の移動平均で前年比+2.4%と前月の同+2.8%から一段と鈍化。単月の振れが大きい賞与を除くベースでも同様に、前月の同+2.9%→今月: 同+2.7%に鈍化。労働需給の逼迫緩和で年明け以降の賃金上昇率がやや鈍り始めていたことに加え、所得補填制度の対象労働者に給与の8割を支給したことも、賃金上昇率の押し下げに働いた。

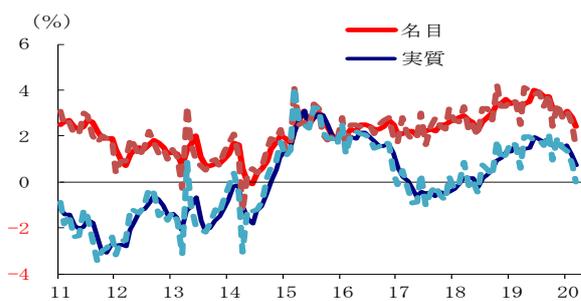
■英国: 失業率と失業給付申請件数



出所: 英国統計局

■英国の失業給付・平均賃金

■英国: 週当たり賃金・賞与(全産業、前年比)



注: 実線は3ヶ月移動平均値

出所: 英国統計局

	2019				2020							
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
失業率(失業給付、%)	3.1	3.2	3.2	3.3	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	5.8
失業給付件数(前月差、千人)	24.5	31.4	19.7	16.3	13.5	26.4	15.0	2.6	-0.2	5.9	5.4	856.5
失業率(労働力調査、%)	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	4.0	3.9	—
(単月の失業率、%)	3.62	4.06	3.74	3.76	3.99	3.54	3.91	3.85	3.99	4.04	3.73	—
就業者数(前月差、千人)	28	114	31	-56	-58	24	208	181	184	172	210	—
週当たり賃金(産業計、前年比、%)	3.5	4.0	3.9	3.7	3.7	3.2	3.2	2.9	3.1	2.8	2.4	—
賃金	3.6	3.9	3.9	3.8	3.6	3.5	3.4	3.2	3.1	2.9	2.7	—
ボーナス	3.6	3.9	5.3	2.0	4.3	-3.9	-1.0	-4.6	3.9	1.1	1.0	—

注: 労働力調査基準の失業率、就業者数、週当たり賃金は当月で終わる3ヶ月移動平均 出所: 英国統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。